

第一話 夢

私は十六才で主に帰依し、その二年後に聖霊の降り注ぎを受けた。そのすぐ後に、最初の霊的な夢を見たが、それは、その後授かった多くの夢の基礎となるものであった。この夢の意味は私には数年間わからなかった。

私の前に、首から足元まで純白の衣を着た主イエスが立っておられる。その衣はとてもまぶしく見える。主は私に語っておられ、主の唇が動いているのを私は感知しているのだが、何を言っておられるのかは私には聞こえない。語っておられる間、主の周りに暗がりがある。否定的な意味や悪い意味ではなく、ただ暗がりがあるのだ。

私はすぐに目を覚ましてこの夢について思いをめぐらしていたが、それから数年もたって、祈りと聖書の勉強をしていたときによく、民数記12章6節から8節までに見出される聖句の一部を見て特に次の言葉に注意を払うようにと主に示された。

「、、主であるわたしは、幻の中でその者にわたしを知らせ、夢の中でその者に語る。」（欽定訳）

読んでみると、聖霊が、「夢の中で語る」と「暗き語り」（8節）という言葉強く印象付けてくださった。聖霊は、ご自身が夢を介していくつかのことがらを明らかにするであろう、

ということを示し始められた。すると私は、あの第一の夢とその象徴するところをはっきりと悟った。主は語っておられたのだ。そして、暗き語りないしは暗き話で語っておられたのだ。暗き語りまたは話とは、難問、判じ物、格言、難しい問題、箴言、または謎のことである。主が私に語られているということと私が聞くことができないということが象徴しているのは、主が私に夢の中で語られるがその中のいくつかの意味は始めは明らかでない、ということだと悟った。そのために、私はイエスがこの夢の中で暗き語りで語っておられたのを見たのだ。主が語っておられた内容がこの夢の鍵だったのではなく、夢の中で暗き語りで語られることになる、ということが鍵だったのだ。実際にはイエスは時として夢の中で私に明白に語られたこともあったが、主が語られたことのいくつかは、その意味するところを把握するために祈りと主を待つことが必要であった。

いにしえの時代と同様、神は今でもそのご計画と道を啓示するために象徴を用いられる。我々はしばしば、象徴で見た詳細の方がよりはっきりと覚えているものだ。象徴は、言語ないしはコミュニケーションのもうひとつの形式である。書き記された主のことばは、多くの象徴と間接的な啓示方法に満ち溢れている。神は、神がお選びになるとき、そして必要なときに、しるしや奇跡、不思議な業をお使いになる。ときには神は、これらを我々への言葉や約束を確認するためにお使いになる。しかし、誤った動機でしるしを求めることは、主によって罪とみなされている。我々は、祈りに対して神のお選びになる方法で答えていただかなければならず、その方法を神に指示するような試みはしてはならない。神を信じない、反抗的な魂に対して神

がしるしや不思議を与えてくださることはないのだ。使徒伝10章40節から41節までの次の聖句を見よ。

「神は三日目にこのお方を甦らせ、全ての人々にではなく神に選ばれた証人たちにこの方を示すためにお与えになった。」

そう、キリストご自身も、正にこの理由で、たとえ話で教えられたのだ。その理由とは、霊的なことに対して心を開いておらず、興味本位で単に神の教えの知識を欲しているだけの、神につき従う意図のない人々から真理を覆い隠すため、ということである。しかしイエスは弟子たちにはご自身のたとえ話の隠された意味を説明された。神は今日でも、正しい態度で神を追い求めていない心の持ち主や、高慢な精神で求める心の持ち主から、真理を隠される。イエスはさらに、ご自身の弟子たちに、彼らの真珠を豚の前に投げ捨てないようにとまで語られた。これは今日でも適用される。その意味はごく単純である。豚は、不純な、霊的な真理を欲しない人々を象徴している。彼らはこれらの真理を価値のないものと判定する。もっとも、その豚、つまり不浄な人々も、神の霊によって罪の呵責を感じたときに、これらの真理に心を開き、天からの真のパンを見つけ、飼育用の残飯から向き直るかも知れない。

このように、友よ、高慢で、多くを要求する、反抗的な人々は、決して、神から大した肯定的な反応を得ることがないのである。神は、そのような人々にご自身を明らかにすることを欲しておられないし、彼らが神の条件に服従するまでは神は彼ら

にとっては死んでいるように見える。そう、多くの人々にとって神は死んでいるように見えるのだ。神はあらゆる場所におられて全てをご覧になっておられるのだが、多く人は神を感知しない。次の例を考えてみよ。いかなる瞬間にも我々の体を多くの無線が通り抜けているのに、我々にはそれらのどれも聞こえてこない。では、それは真実ではないのか？ 我々は、無線受信機を適切な周波数に合わせれば、聞こえるのだ。それと同じように、多くの人にとっては、神に合わせていないので、神が死んでいるように見えるのだ。彼らは神のチャンネルに合わせることを拒否するのだ。もし我々が神を無視する場合、そのことが神を変えるだろうか。絶対に否である。神は常に生きておられ、多くのチャンネルを通して常に語っておられる。神は自然を通して、聖書を通して、また神の霊によって我々の霊に、さらには神の僕たち、聖職者、伝道者、そして教師によって、語られる。神の語っておられることは、高慢な者や邪悪な者には聞こえない。多くのクリスチャンは、時として、自分の生活の中にある罪のためや、神を追い求めないがゆえに、神の声が聞こえないのだ。

それは、神が我々からご自身を隠されることを望んでおられるということではなく、神が、ご自身がお働きになるための一定の原則を述べられたのだ。我々はそれらの原則に適合しなければならない。神は我々に適合されない。いやはや、かつて私は、神の声を一度も聞いたことが無いと言う多くの自称クリスチャンに驚かされたものだ。しかしこれは驚きではない。というのも、それらの人々はテレビの前で、あるいは新聞や雑誌を読んだり、自分を楽しませることをして、何時間も過ごすこと

ができるのに、神のことばを読んだり神を求めるための時間を見出すことがないのだ。我々が神を最優先にしないのであれば、神がご自身や、気に懸けておられることを、そうやすやすと我々に啓示してくださると思っはならない。神は多くの人々が信じているよりもはるかにご自身を啓示したいと望んでおられるのだが、繰り返しになるが、それは神の定めた条件に従ってなされるのであって、我々の提示する条件によるのではない。従って、もし我々が神から声を聞くことが全くない場合、神が語るご意志がないのがその理由ではない、ということを知りなさい。そうではなく、それは我々が、神に主（あるじ）としての地位と毎日の生活における首座を捧げないからなのだ。ひとを知るにはそのひとと時間を過ごさなければならない。神を知る場合もそれと異なるない。